

連携 学生 × 観光

## 酒田おもてなし隊



酒田おもてなし隊とは、平成26年6月から9月に開催された日本最大の観光キャンペーン「山形デスティネーションキャンペーン(以下DC)」に合わせて、酒田を盛り上げるために設立された学生有志による団体です。DC期間中は毎週末酒田駅で観光案内や出発・到着列車の出迎えを実施したほか、庄内一円に出掛けて住民の笑顔と庄内のPRメッセージを収録した動画を制作し、駅で上映を行いました。翌年の平成27年は、酒田港のイベント参加や、県外・海外からの観光客に対する案内など活動を拡大。その功績が認められ、昨年12月28日にはJR東日本新潟支社営業部長から感謝状が授与されました。

今年さらには活動の場を酒田から庄内全域に広げる計画が始動。学生たちは「庄内に観光流動を起こすには自分たちが『庄内を学び愛し行動する』」をスローガンに、地域の方と一緒に情報発信や案内活動、ネットワーク作りなど課題解決に取り組んでいます。



連携 学生 × 歴史・文化

## 鳥海山・飛島ジオパーク加盟申請に向けて

鳥海山・飛島ジオパーク認定に向けて、機運醸成のための講演会や研修が開催されていますが、酒田市八幡地区ジオパーク推進事業検討会では学生がワークショップのファシリテーター役を担当。地域住民と一緒に八幡地域の魅力の磨き上げに取り組んでいます。

地域の方の学生に対する評価は高く、継続して地域の取り組みに参画することを求められています。今後も飛島や鳥海山麓の地質の根拠、歴史・文化を活かした観光に関し、地域や行政と一緒に幅広い年齢層が一同に集い発見と学びを共有し、協働してジオパーク認定に向けた取り組みに協力していく予定です。



# 特集 大学まちづくり

## 本市と東北公益文科大学の連携



●お問い合わせ / 市政推進課 ☎26-5704  
東北公益文科大学 ☎41-1111

東北公益文科大学は、公設民営の大学として平成13年4月に誕生しました。  
現在、文部科学省より「地(知)の拠点整備事業」の認定を受け、人口減少対策、雇用の場の創出、中山間地域の活性化など、本地域の課題に正面から向き合い、解決に向けて取り組んでいます。  
また2月12日(金)には、東北公益文科大学教授の矢口明子氏が本市副市長に就任する予定です。本市としても、東北公益文科大学の知見とネットワークを活かしながら更なる連携の強化を図り、市と大学が一体となった「大学まちづくり」を推進していきます。  
本市と東北公益文科大学の取り組みを紹介し、私たちの暮らす地域の未来を一緒に考えます。

※「地(知)の拠点整備事業」 / 自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学などを国が支援するもの。課題解決に資するさまざまな人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在として大学の機能強化を図る。



私は平成13年4月の開学時から約15年間、東北公益文科大学に勤めてきました。

大学の原点には二つのことがあると思います。一つ目は、地域の要望により設立された大学であることです。開学以来、地域に密着した研究・教育活動を一貫して行ってきたことが「地(知)の拠点整備事業」の採択につながりました。二つ目は「全国スケール」の大学であることです。全国から人の集まる大学にするために、全国唯一の「公益学部」が創設されました。

現在吉村昇学長の下でさらなる魅力を持つ大学づくりが進められています。若い人だけではなく、学びたいと考える市民がいつでも学べる「開かれた大学」を目指して、これからも地域・大学・行政をつないでいけたらと思います。



副市長 就任予定の  
矢口 明子教授

東北公益文科大学教授が  
副市長に就任！



「グローバル・セミナー」の様子  
高校生と大学生が楽しく英語漬けの2日間を過ごしました。

市と大学が一体となって政策課題を検討・解決する仕組みとして調査研究事業を平成18年度から実施しており、10年間で20件の調査研究に取り組みました。今年度試行的に行った「グローバル・セミナー」では、本市の未来を担うグローバル人材育成のノウハウを得ることができました。

国際化

連携 酒田市 × 大学

連携強化に向けた取り組み

地域福祉

例年、市では社会福祉士実習の学生を受け入れています。加えて大学教員から地域包括ケア体制構築のアドバイスを受れたり、福祉の側面から住民自ら地域づくりを考える「地域支え合い研修会(ワークショップ)」を学生も交えて行ったりと、地域福祉の推進や地域福祉人材の育成に連携して取り組んでいます。

公務員人材育成

公務員を志望する学生をサポートするため、山形県庄内総合支庁と庄内2市3町が協力して「公務員が仕事のやりがいなどを学生に伝えるワークショップ」を開催。学生の意向向上につながりました。

また平成28年度からは、新たに採用した市職員が東北公益文科大学に入学できる制度を設けました。公益の視点によるまちづくりのノウハウを地元大学で体系的に習得することにより、地域を先導する人材の育成が期待されます。



「公務員を目指す学生のための就活サポートセミナー」の様子  
公務員が仕事のやりがいなどを熱く語り、学生も気になることを積極的に質問しました。

またIT起業家の育成を目指した「コワーキングスペース『UNDERBAR』」の設置運営や学生の街なか活動を促進するための「のるるんバス利用支援」など、新たな連携を進めています。今後一層連携を深め、市と大学が一体となった「大学まちづくり」を進めていきます。

こんな活動もしています！

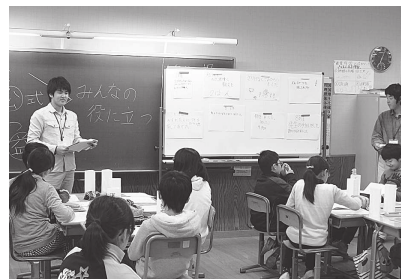
連携 学生 × 子ども

Koeki Kids Project

公益キッズプロジェクト

子どもの頃に「公益」の視点で物事を考える機会をつくることを目的に、学生が小学生を対象に「公益を考える授業」を行うプロジェクトです。

本市を中心とした庄内地域の小中学校の協力を得ながら、教材開発や指導案作成、授業を実施しています。



連携 学生 × 地域福祉 × 防災

八幡地域日向地区  
「地域支えあい防災マップづくり」

「防災・減災」をテーマとした地域コミュニティづくりの一環として、公益大生が日向地区の「地域支えあい防災マップづくり」に参加しました。

学生は一連のマップ作成過程や話し合いに「聞き役」として関わることで、地域特有の地形や過去の災害発生箇所、要援護者やその支援体制などへの理解を深めました。



グローバル＆ローカルの大学を目指して

東北公益文科大学学長 吉村 昇氏



私が学長に就任してからまもなく2年が経とうとしています。現在、東北公益文科大学では、今後3年間の大学が目指す目標を掲げた「吉村プラン」に基づき、より魅力ある大学づくりのためのさまざまな施策を展開しています。

その大きな柱の一つがグローバル人材の育成です。本学の学生はもちろんです。昨年8月には庄内地域の高校生を対象にした1泊2日のグローバルセミナーを実施したほか、外国人教員が地域住民と交流するイングリッシュカフェも実施しました。地方においても国際性を持った人材育成が不可欠な現代、庄内にながらグローバルな世界に親しめる場を多彩に提供し、地域の国際化の一翼を担っていきたくと考えています。

もう一つの柱は地域の発展に貢献できる人材の育成です。本学では開学以来一貫して、地域をフィールドにした学びを行ってきました。

今後は、プロジェクト型、競争型の演習科目を通じ、地域課題の解決策立案に積極的に取り組んでいくほか、インターンシップや起業家育成など地域の活力を生み出す力や福祉のスキルで社会に貢献できる人材の育成を進めていきます。

また教員を志す現役の学生による小中学生への学習サポートなど、学生力を活かした新たな地域貢献にも今後着手していく予定です。今後も酒田市と連携しながらこの地域の活性化の拠点となるべく活動を展開してまいります。

大学地域貢献度ランキング  
2015

同大学は、日経グローバル誌(平成27年12月7日発行)の特集「大学地域貢献度ランキング」で北海道・東北地区私立大学の中で第1位に輝きました。